

仮設店舗の復興は順調なのか

542 班 佐藤日和 神山真由 小野寺苑果

「震災後5年で復興」という目標を達成できなかった反省から、助成プランを立てるなどとさまざまな工夫があり順調であると思ったが、実際に利用する人は多くが順調であると思わないと答えた。

1 序論

私たちは、メディアで施設の土地や人手の課題について取り上げられているのを見て、仮設店舗の復興は順調なのかについて調べようと思った。10月に市役所を訪問した時点では「建物や土地」について調べ、仮設住宅や公園などの現状などを知り、中でも仮設店舗に興味を持った。今回、班で「復興＝建物が建っている」ということをゴールに調べることにした。

2 本論

①市役所で質問をして分かったこと

- ・震災後5年で復興ができなかった。
- ・仮設住宅は小さな公園、学校から撤去する。
- ・気仙沼市の市内5か所に集約される。
- ・移転、撤去には時間や手間がかかる。
- ・子供たちの遊ぶ場所や高齢者は安心して生活できる環境を設ける必要がある。
- ・被災者の心のケアのために、様々な活動を行っている。

復興の計画を立ててもなかなか順調にはいっていない。

この表は、宮城県の施設撤去見通し。その中で、気仙沼は完成後5年を経過する施設数は25件、28年度撤去予定件数は4件。このことから、気仙沼は宮城県の中でも、施設撤去が進んでいることが分かる。

②助成について

助成とは、事業、研究の完成を助けることで、助成金とは融資とは異なり、返済の必要がない資金のことである。つまり、仮設店舗を使用するときに、市役所から支援されるお金のことである。


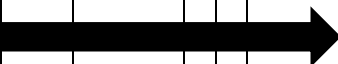
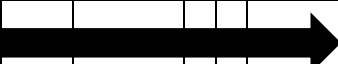

利用者は次の3つのプランの中で自分に合ったものを選択する。

- ・はじめは仮設として短期間利用するつもりだったけれど長く使用するときのもの。(長期利用にかかる助成)
- ・施設を存続させたいが解体せざるを得ない場合に工事費が援助されるもの。(移設にかかる助成)
- ・施設を存続させたいが撤去せざるを得ない場合に工事費が援助されるもの。(撤去にかかる助成)

このようなプランについての説明や入居条件、活用例などが書かれてあるガイドブックを利用者に配布している。私達もいただいたが、事業についての言葉がたくさん並べてあり、読み取るのが難しかった。

③インタビュー・アンケート

実際に仮設店舗を利用している方の声を聞きたいという考えから、インタビュー(時間の都合が合わなかったところにはアンケート)をした。

団地名		H29.3			H31.3	団地の分類
気仙沼中住宅		撤去・復旧				集約する
気仙沼公園住宅						集約先
反松公園住宅						集約先
田谷公園住宅		撤去・復旧				集約する

質問する前の班の予想

- ・仮設より本店の方が環境がよいのではないか。
- ・本店に移りたいと誰もが思っているのではないか。
- ・本店へは計画通りに移れなかったのではないか。
- ・助成などのプランは多くの人が納得しているのではないか。

「今も仮設店舗で営業しているお店」

- ・仮設のままがよいか
- はい →今ここに働ける場所があるから。

お客さんが来てくれるから。

いいえ→トイレが外にあり、雨の日や寒い日は不便。

多くの人数が入れない。

駐車場がせまい・良い環境で働きたい。

- ・本店に移れない理由
沿岸が復興すればそこにお店が移り、街中も土地が空くのだが、沿岸ほど復興が進んでいないため、土地が空かないから。
- ・助成について思うこと
それぞれにあった内容で、支援金もただけて嬉しい。
使い勝手が悪い。書類が多い。
報告が大変。わからない人もいる。

移設するとお客さんが来れなくなるかもしれないといった設備以外の理由もあることが分かった。

「本店に移ったお店」

- ・本店に戻ろうとした理由
自宅から仮設までの移動が不便。
後継ぎがいた。
- ・本店に移るまで計画通りに行ったか
→いかなかった
建てるまでの過程が初めての経験で手続きの仕方も分からなく戸惑ったから。
土地がなかったから。
また、後継ぎがないという理由で震災後

店を閉めたところも少なくない。

《復興は順調であると思うか》

いいえと答える人が多かった。

→個人の意見が多くまとまらない。市に頼りすぎて利用者は何もしていない。と考えている。

3 結論

実際に働く人は復興が順調であると思っていないことから、仮設店舗の復興は順調ではないと言える。

4 課題

- ・助成のプランが難しいため、理解できていない人がいる。
 - ・沿岸の復興が遅れているため、街中の復興が進まない。
 - ・市のほうでやってくれるからという考えで、市に頼りすぎている。
 - ・お店にお客さんが来てくれるか心配。
- その中で私たちが協力できること
- ・新聞やSNSなどでお店を宣伝し、気仙沼だけではなく多くの人に興味を持ってもらう。
 - ・市役所に、私たちが伺った仮設店舗の方々の声を伝える。
多くの人が仮設店舗との直接的な関わりがないかもしれないが、利用する際には、コミュニケーションを取るなどして盛り上げていきたい。

5 参考文献

仮設施設整備ガイドブック

アンケート、インタビュー協力店

マンボ シェ・ササキ 亀山精肉店

おだづまっこ アンカーコーヒー

エスポアール こけし らいむらいと